

地域協創部「欧州ソーシャルバンク訪問記」



2024年9月24日

#地域協創部 #SDGs4 #SDGs11 #SDGs17

視察内容や感想をレポートしたいと思います。

人生の初の海外視察旅行は、結果から申しあげると、ドキドキよりワクワクが勝る、大変実りある5日間になりました。

視察先では参加者各自がはじめに自己紹介を英語でスピーチします。大学以来の英語だったので少し緊張しましたが、どうにか相手に伝わったかなと思います。AI 技術の発展で自動翻訳機は進化していますが、簡単な会話くらいは英語できないと、とも思いました。

さて、スイス、ドイツ、オランダと欧州3カ国の金融機関の視察について、印象に残ったことをピックアップしてみました。

スイス:Freie Gemeinschafts Bank

- 1984年に設立された、スイス最古のバリュー志向銀行。
- 環境や持続可能な社会形成のために取り組む事業先にプロジェクトを組成し、預金者や会員から意見を集めて融資を決定する信託融資を実施。預金者にも関与してもらうことで責任を共有する仕組みを取り入れています。
- 実体経済に価値を置き、仮想経済への融資は行わない方針です。

ドイツ:GLS Bank

- 1961年に「地域のための信託協会」として設立され、その後「GLS 銀行」として許認可を取得。ドイツで最初の「倫理的運用基準」を有する金融機関であり、スローガンは「お金の使い方を変えよう」。

- ・融資・投資対象基準を明確に定め、ホームページ等で公開しています。地域の将来像から逆算して「積極的に行うべきこと」「行ってはいけないこと」を検討し、基準を決めています。
- ・地域との関わりを大切に、年間300回程度のイベントを開催。イベントへの参加は、職員の業務の20%を占め、地域や預金者との対話の時間を大切にしています。

オランダ: Institute for Social Banking

- ・2006年に設立され、世界13カ国・17団体が加盟するソーシャルバンクの概念やファイナンストレーニングを提供する研究機関。ビジョンは「お金と向き合う意識を高める」。
- ・主な事業は「教育」「ネットワーク」「リサーチ」。
- ・サマースクールを開催し、毎年20カ国、80名程の関係者(ソーシャルバンク、NGO、学生等)が参加。青空の芝生の上で学びを深める機会を提供しています。



視察先の金融機関で共通していたのは、

「目の前の利益を重要視せず、中長期的な視点で地域・社会・環境がどのように変化するかを融資の基準としていること」

「市民の環境や持続可能な社会に対する関心が非常に高く、問題意識を常にもっている」という点でした。

視察地域では、スーパーの陳列棚ひとつとっても有機栽培の商品が大半を占め、フェアトレード商品もたくさん。開発途上国の方々を支援する(人権や環境保護等)意識が非常に高い印象でした。

視察先はソーシャルバンクとして預金者や地域との対話を大切にしており、融資対象は中長期の視点で地域や社会のためになる事業者に限定。ホームページやニュースレター等で融資先の事業内容を紹介し、地域住民や預金者に報告する好循環が根付いておりました。

これらは金融危機や雇用不安、海面上昇等の地政学リスクが背景にあると思われ、一概に日本の文化と比較することはできませんが、見習うべき点が多々あり、衝撃を受けました。

今回の海外視察は私の大きな財産になりました。

サステナブルな視点を地域の皆さまとともに持ち、持続可能な地域社会に、人に地域に未来にやさしい金融機関になるべく、これからも努力してまいります。